①「標本抽出実験」を実行させたり「調査データの解析」の出力結果を利用しながらアンケート調査の基本を説明し，

②サンプル数50程度の簡単なアンケート調査を実際に行なってもらう

という形で QUEST・PACK をアンケート調査の教育コースに利用しているが，単にテキストと黒板を使って説明していたときと比べて，受講生に興味をもたせながらアンケート調査の基本と実際を理解してもらうことができるようになったとわれわれなりに評価している．

## 5. おわりに

今回紹介した QUEST・PACK は，昨年の秋季研究発表会のORソフトウエアショウで発表したシステムに改良を加えたものである．発表会において貴重なコメントをくださった学会員の方々に感謝いたします．

### 参考文献

有馬昌宏，井内善臣，辻新六：アンケート調査の基本と実際，朝倉書店，1986

# 研究部会報告

## ●交通問題●

**・第12回**

**日時：**昭和61年2月26日(水)　18:00～20:00

**場所：**東洋経済新報社ビル（日本橋）　**出席者：**12名

**テーマ：**「鉄道技師の見た国際復興銀行の活動」

**講師：**島　隆氏（日立製作所）

世界銀行グループの中の1つである国際復興銀行で鉄道プロジェクトに対する貸し付け承認の仕事に従事していた経験から最近の同銀行の活動状況，認可に対する条件等について説明があった．

**・第13回**

**日時：**昭和61年3月19日(水)　18:00～20:00

**場所：**東洋経済新報社ビル（日本橋）　**出席者：**12名

**テーマ：**「自由討論」

昨年度からのひきつづきで，国鉄に関する諸問題について検討するとともに，次のテーマの中から研究を進めたいという提案がなされた．1.タクシー会社，2.徒歩からの交通の見直し，3.めまい現象（運賃体系を旅客と通勤の2本立とする.），4.環状道路・東京湾横断道路，5.通勤電車のクラス分け，6.見学会（物流会社），7.列車の等級の多様化など．

## ●DP●

**日時：**4月22日(火)　18:00～20:00

**場所：**日科技連　**出席者：**7名

**発表：**安田正実(千葉大)“多変量停止問題に対する変化する支払の変形”

プレーヤーへの支払に対する無作為ベクトル別の2つの種類が存在するとする．系は個々の停止戦略を集計することによって停止する時，プレーヤーに与えられる支払は彼が“stop”または“continue”と宣言するにしたがって決定される．2人のプレーヤーの零和と簡単な優位則の問題の場合はいわゆる Dynkin のゲームに帰着する．最適方程式が導かれ Nash 平衡戦略が得られた．また他に“ポテンシャル理論法によるOLA最適停止問題に対する値について”の発表も同時に行なわれた．

## ●日本的システム科学(研究グループ)●

**・第13回**

**日時：**昭和61年4月19日(土)　14:00～17:00

**場所：**八丁堀　東京都勤労福祉会館　**出席者：**6名

**テーマ：**「平和：共存共栄のオペレーションズリサーチ」

**発表者：**上田亀之助（上田イノベーション研究所・杉野女子大学）

平和とは共存共栄が実現した場合の状態を示すコトバです．平和とは相手や関係者もその気になってくれないと実現できない状態です．ですから，自分が平和を保つ方法論と相手がこちらに対して平和を保ってくれる，双方のオペレーションズをリサーチする必要があります．


© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．